

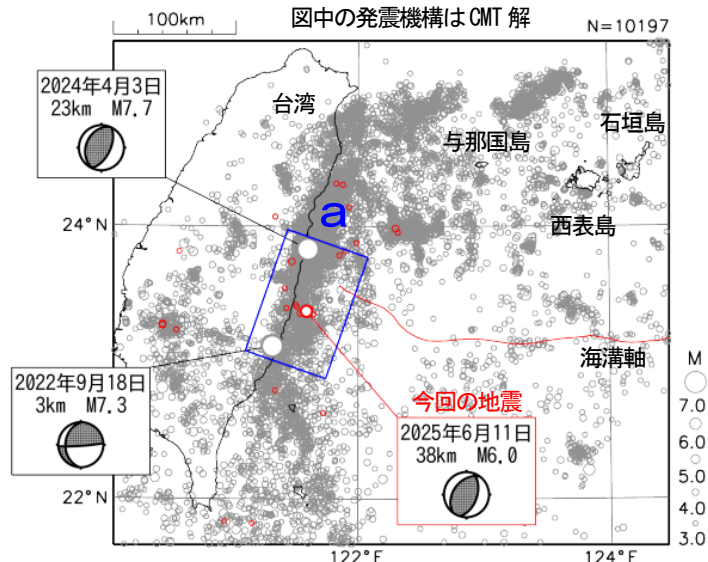
6月11日 台湾付近の地震

震央分布図

(2009年9月1日～2025年6月30日、
深さ0～300km、 $M \geq 3.0$)

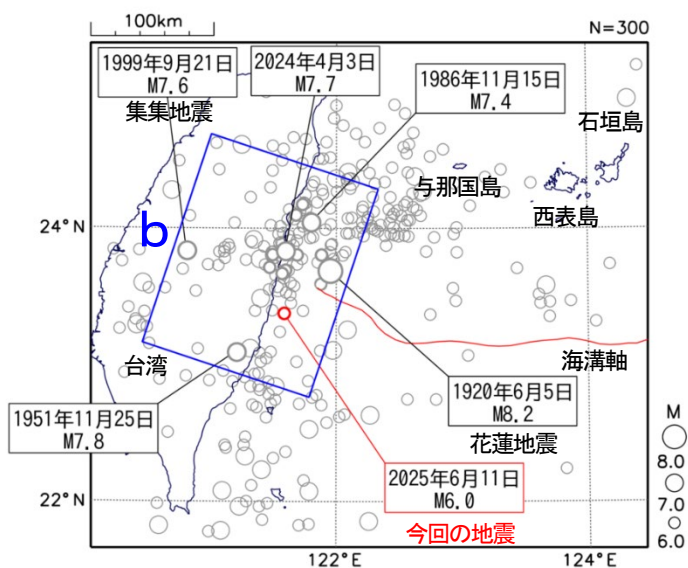
2025年6月の地震を赤色で表示

図中の発震機構はCMT解



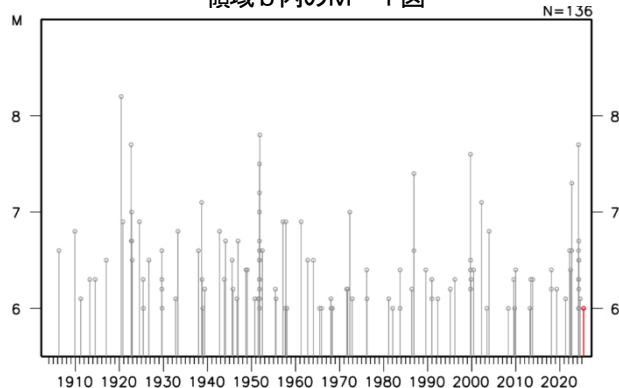
震央分布図

(1904年1月1日～2025年6月30日、
深さ0～100km、 $M \geq 6.0$)



2020年までの震源要素はISC-GEM
2021年以降の地震の震源要素は気象庁による

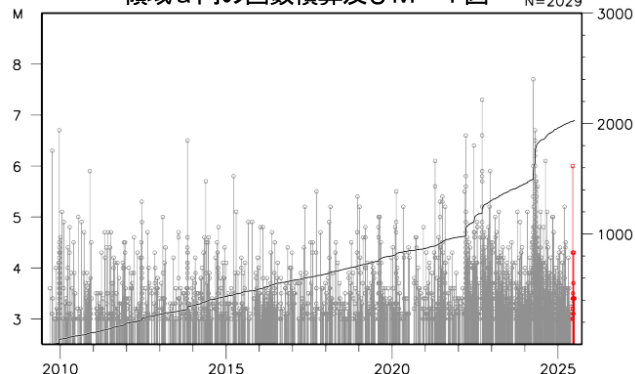
領域b内のM-T図



2025年6月11日20時00分に台湾付近の深さ38kmで $M6.0$ の地震（日本国内で観測された最大の揺れは震度2）が発生した。この地震の発震機構（CMT解）は、西北西－東南東方向に圧力軸を持つ逆断層型である。

2009年9月以降の活動をみると、この地震の震央付近（領域a）では、 $M6.0$ 以上の地震が時々発生しており、2022年9月18日の $M7.3$ の地震（日本国内で観測された最大の揺れは震度1）が発生したほか、2024年4月3日の $M7.7$ の地震（日本国内で観測された最大の揺れは震度4）では、与那国島久部良で27cm、宮古島平良で25cm、石垣島石垣港で17cmの津波を観測した。

領域a内の回数積算及びM-T図



1904年以降の活動をみると、今回の地震の震央周辺（領域b）では、過去に $M7.0$ 以上の地震が時々発生している。1920年6月5日に花蓮地震（ $M8.2$ ）が発生し、台湾では死者5人、負傷者20人などの被害が生じた。1986年11月15日の $M7.4$ の地震（日本国内で観測された最大の揺れは震度3）により、宮古島平良で30cm（平常潮位からの最大の高さ）の津波を観測し、台湾では死者13人、負傷者45人などの被害が生じた。1999年9月21日に集集地震（ $M7.6$ 、日本国内で観測された最大の揺れは震度2）が発生し、台湾では死者2,413人、負傷者8,700人などの被害が生じた。

（被害は、宇津及び国際地震工学センターの「世界の被害地震の表」による）